

令和7年度 帯広市立帯広小学校 学校便り

帯小の窓

通いがい、通わせがいある学校、今日もおもしろかったなあ

～ 学校教育目標 ～

- よく考え、意欲的に学ぶ子
- 命を大切に、たくましくやりぬく子
- 豊かな心を持ち、協力し合う子
- 勤労の大切さを知り、すすんで働く子

NO.14 令和7年7月14日 発行

校長 黒島 俊一

でんでん虫（かたつむり）の優しさと悲しみ

ある朝の交差点での見守りの時、たくさんのかたつむりを昆虫ケースに入れて登校する子がいて、その中の大型のかたつむりのことを、「でんでん虫の親分」と言ってたのがおもしろいなと思い、そういえば最近はある見えないなと思ってそのかたつむりを見つめていると、ふと思い出した二つの話がありました。

一つは「おてがみ」（作 アーノルドローベル）。国語の教科書にも出てくる、かえるの「かえるくん」と「がまくん」の二人の間の友情物語。かえるくんががまくんに、急ぎで届けたい「おてがみ」を、なんと「かたつむりくん」に頼んで、「まかせてくれよ、すぐやるぜ」と請け負ってしまったかたつむりくんが、実に4日もかけておてがみを届けたことなどのほか、ちょっとユニークも、温かみのやりとりがある話です。本質的なテーマはかえるくんとがまくんの関係性で、もっと深いところにあるのですが。



もう一つは「でんでん虫の悲しみ」（作 新美南吉 ごんぎつねの作者としても有名）。自分の背中の殻に悲しみがいっぱい詰まっていることに気づいたでんでん虫は、自分の背負っている不幸について、友達を訪ね、伝えまわっていると、友達の別のでんでん虫から、「それはあなただけではない。私の背中の殻にも悲しみはいっぱい詰まっている」と返されます。その後、どの友達からも返ってくる答えは同じだったことから、でんでん虫はやっと、悲しみは誰でももっているのだということに気づくという話。このお話は、その後でんでん虫が嘆くことをやめたところで終わっています。

いずれの話も、短い中に「ともだち」との関わりの中で、考えたり、心動かされたり、新たな決意をしたりなど、生きる上で必要な「真の友情」を考えさせる物語です。友人には段階があって、名前や顔を知っている「知人」から、生活を共にして、教室で一緒に遊んだり、学んだり、親しみを覚え、やがて親友関係が結ばれてくるのです。そして苦しみや辛さ、嬉しいこと、楽しいことを分け合う「友人」から、やがて心の結びあった「真友（しんゆう）」になって、互いに支えあうようになるのでしょう。学校では毎日の生活の中で、時に子供同士のけんかや行き違いもあることでしょう、それらを経たお互いの心の結びつきが深まるものだと思います。そしてみんなが成長していく力となることを願うのです。

参観日の子供たちの学びと育ち 学びの雰囲気が高まっています

1学期末の参観日にご来校いただきましてありがとうございます。担任教諭の指導の下、楽しく学ぶお子さんの姿をご覧になり、ご安心いただきましたでしょうか。当日は30度を超える大変暑い日中の参観でしたが、エアコンのきいた教室での子供の学びの環境も体感いただきました。

また今回は一番身近な保護者のみなさんが、お子さんに寄り添って教えていただく家庭科授業など、お力をお借りする授業や修学旅行説明会などもあり、もりだくさんの内容でもありました。ご協力に感謝いたします。

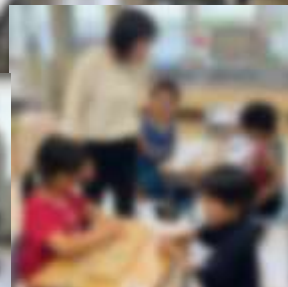
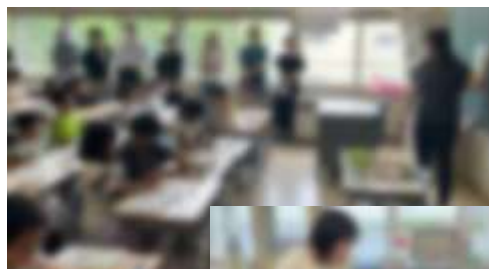
子供たちに学びのルールや様々な約束事が学級に定着してきて、どの学級でも張り切って、学び合い、高め合い、集中して取り組む子供たちのよい学びが進んでいます。1学期は残すところあと5日の区切りを迎えるところです。4月8日の学年始めから3か月あまり。子供たちの明るく元気な声に包まれながら教育活動は着々と進んできましたが、いよいよまとめの時期最終盤になります。

これまでの学習内容を確実に身に付けるため、まとめのこの時期を大切に、学びの理解を深めてほしいと思います。



参観日風景から。どの学級でも笑顔あふれる
学びの姿が嬉しいです。

引き続き、子供の学ぶ楽しさ、わかるうれしさ、できる喜びを追求します。



学校評価アンケートの回答はお済みですか。

6月27日に文書にて、前期分の回答をお願いしておりました。子どもたちのこと、先生方のこと、帯広小学校のことなど、みなさんのお答えや思いは、これから学校ががんばり続ける力になります。ぜひたくさんのお声をお聞かせ下さい。

【QRコード】

回答はこちらから →
質問は10問、お時間とらせません
今すぐにご協力をお願いします。



「たてわり活動」で人とのかかわりを深める

全校児童を異学年集団として7つのグループに構成して、様々な交流活動を行う「たてわり」活動が今年も行われています。日常の同学年の「よこわり」の教育活動から、機会は限られていますが、年齢の枠を超えた交流ができる貴重な機会です。

以前（20年くらい前）には、市街地中心部の街場の学校の農業体験活動の指定校として、このたてわり活動の一環で、広大な敷地で全校で農業体験学習をしていました。（場所は現在の市民斎場西側、その後、北栄グリーンロード西側へ移転。）

時を経て、現在は5、6年生を中心としたメンバーで活動計画を立て、グループで交流学習を楽しく進めています。時は経過しても、いずれの「たてわり」も上の学年が下の学年を教え、かわいがり、下の学年が上の学年から学び、うやまい、互いに親しみをもち交流を深め、学びあっていることに違いはありません。仲の良さとつながり、絆が深まる、歴史ある、大事にしたい本校の特徴的な取組です。



7月15日は開校記念日 帯広小学校 129 回目の誕生日

本校は明治29年（1896年）以来、今年で129年目を迎え、明日7月15日（火）が開校記念日（休校）になります。129歳のお誕生日おめでとうございます。

開校110周年記念誌「薫風新樹」（くんぷうしんじゅ）をひも解くと、当時校長だった杉森繁樹氏（第27代校長）は、『帯広小学校は、下帯広村字西1条南7丁目に「河西郡公立帯広尋常小学校」として開校し、輝かしい歴史の第一歩を踏み出しました（中略）全国各地各界でご活躍の卒業生は、その誰もが格別に故郷や母校に思いを寄せ、「我帯校・我帯小」の気概高らかに暮らしておられます。（中略）今尚他に誇れる輝かしい伝統と校風が築かれているのだと信じます。』と語られています。

この時から19年。これまで本校を巣立った卒業生は令和7年3月までで実に20505名を数えます。開校から明治、大正、昭和、平成、そして令和へと時代は進み、帯広の開拓の歴史とともに歩んできた本校は、来年令和8年に開校130周年の節目を迎えます。

これから子供たちの輝かしい未来のために、家庭、地域、学校が一体となって、引き続き努力して参ります。変わらぬみなさまからの熱いご支援、ご協力と大きな信頼にお支えいただきますようお願いいたします。

なお、本日14日（月）、開校130周年記念事業にかかわる準備会議の開催を予定しております。周年関係にかかわる今後の計画等については、また改めてお知らせいたします。



本校3階南資料室から（上下）。開校記念日の前後は、本校の歴史資料等、自由に見学できるようになっています。保護者のみなさまどうぞ。



開校60周年（昭和31年）時の帯広小学校全景。今の中央公園にありました。



花の帯小の
自慢の花壇



手塩にかけて地域のコーディネーター畠山さんをはじめ、花壇ボランティアのみなさんが、毎日手入れしてくださっています。ありがとうございます。